

# 「富富富」の生育状況と当面の技術対策について

## 1 生育状況（実証ほデータ）

前年に比べて、草丈は長く、茎数、葉齢、葉色は並みとなっている。

葉齢を揃えて比較すると、草丈は前年よりやや長く、茎数、葉色は前年並みとなっている。

表1 「富富富」の生育状況（6月26日 栽培実証ほ）

品種	年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (L)	葉色	
				(本/株)	(本/m <sup>2</sup> )		葉色板	SPAD
富富富	H30	5月15日	38.0	26.4	579	9.9	4.4	40.3
	H29	5月14日	34.6	28.4	593	10.0	4.5	42.0
コシヒカリ	H30	5月13日	43.3	26.3	552	10.3	4.3	38.1
前年比・差		1	110	93	98	-0.1	-0.1	-1.7
コシヒカリ比・差		2	88	100	105	-0.4	0.1	2.2

注) 富富富栽培実証ほ23か所平均

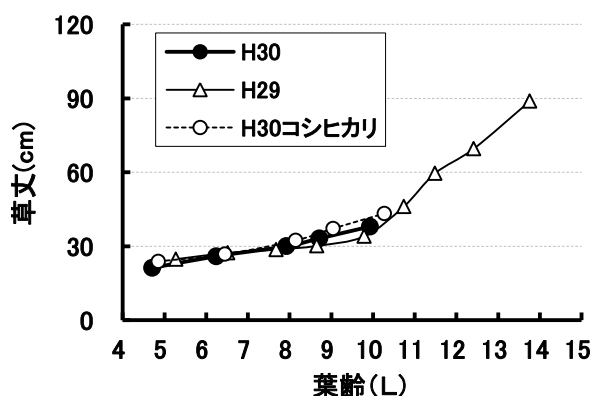


図1 草丈の推移（富富富実証ほ）

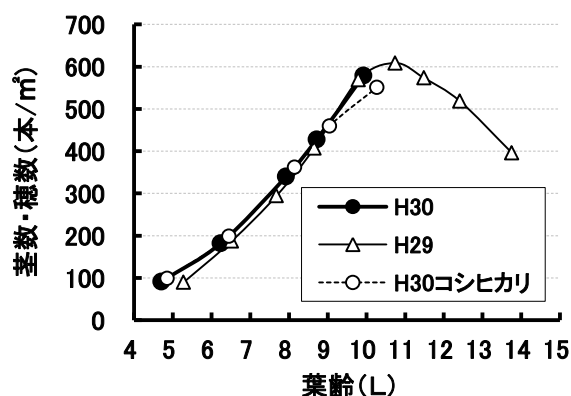


図2 茎数の推移（富富富実証ほ）

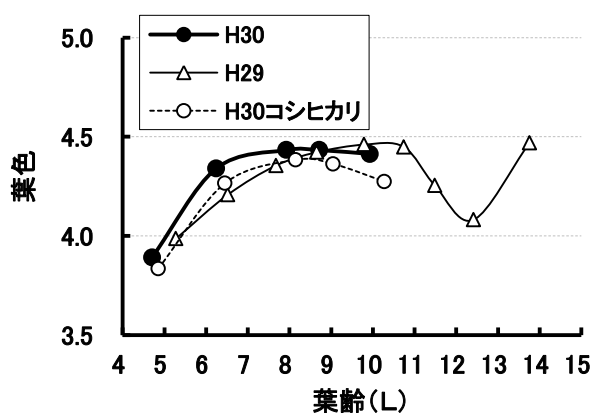


図3 葉色の推移（富富富実証ほ）

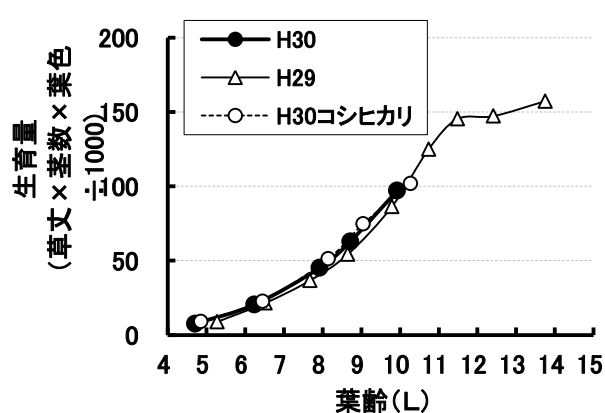


図4 生育量の推移（富富富実証ほ）

## 2 当面の技術対策

・根や稲体の健全化のため、中干し後、出穂期まで間断かん水を行う。

### (1) 「富富富」の幼穂形成期の見込み

平成28年および29年の「富富富」の幼穂形成期は、コシヒカリとほぼ同時期であった。今後平年並みの気温で推移した場合、

現在のところ、本年の生育観測ほのコシヒカリの幼穂形成期は7月13日頃と予測しており、「富富富」の幼穂形成期もほぼ同時期（7月13～14日頃）と見込まれる。

表2 富富富とコシヒカリの幼穂形成期

年次	試験場所	移植日 (月/日)	幼穂形成期(月/日)		
			富富富	コシヒカリ	コシ差
H28	農研	5/2	7/4	7/4	0
		5/9	7/6	7/7	-1
		5/18	7/10	7/11	-1
		5/24	7/13	7/13	0
H29	農研	5/1	7/6	7/6	0
		5/8	7/8	7/8	0
		5/16	7/11	7/11	0
	現地	5/14	7/12	7/11	1

注1) 供試品種 H28: 富山87号、H29: 富富富

注2) H29現地は、展示ほ23か所の平均値

### (2) 水管理

- ・中干し後は、間断かん水により、根や稲体の健全化に努めるとともに、幼穂形成期までに土壌硬度を「足跡の深さ3cm程度」に誘導する。
- ・葉色がやや濃いめに推移することから、適正籾数に誘導するため、出穂期まで原則間断かん水を行う。
- ・また、6月26日現在において、茎数が600本/m<sup>2</sup>を上回っているほ場は、過剰籾数を防ぐため、幼穂形成期まで強めに干す。

<水管理のイメージ>

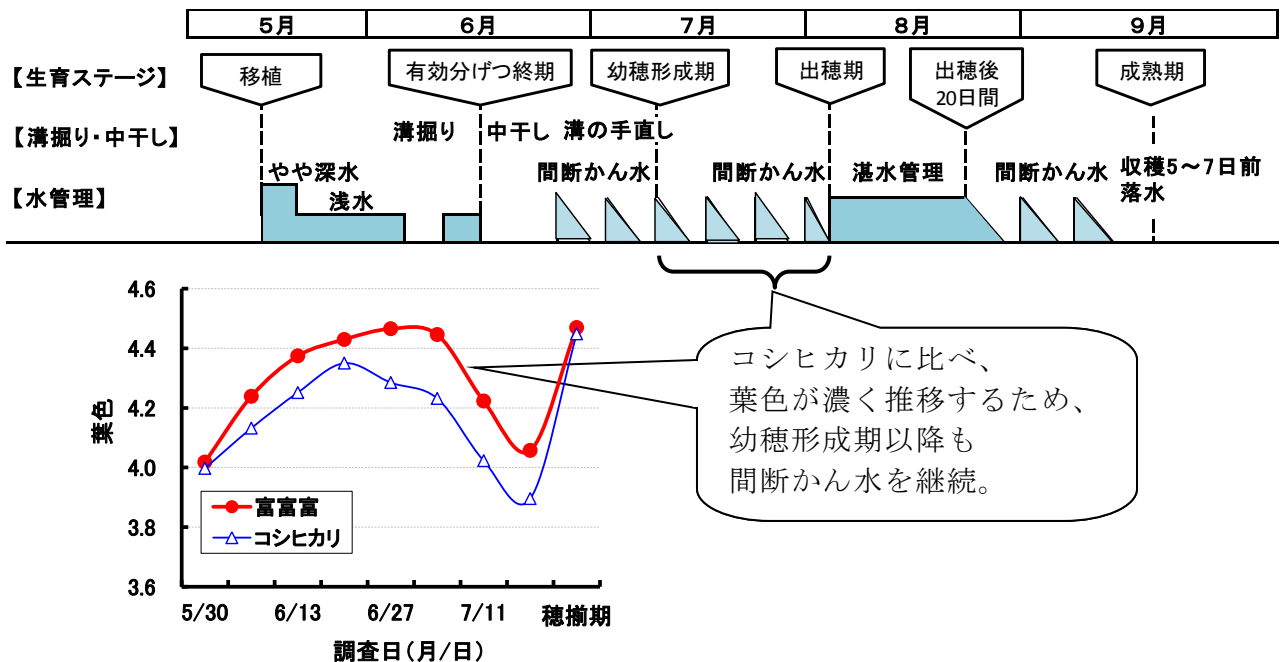


図5 群落葉色の推移 (H29 富富富実証ほ)

(3) 「富富富」分施栽培における穂肥施用の目安

① 「富富富」の分施栽培における穂肥施用の基本体系

- ・分施栽培における穂肥は1回目を幼穂形成期の5日後に窒素成分で0.75~1.0kg/10a、2回目を1回目の5~7日後に窒素成分で1.5kg/10aを基本とする。

② 「富富富」における幼穂形成期の生育の目安

表3 幼穂形成期の生育の目安

草丈 (cm)	m <sup>2</sup> 茎数 (本/m <sup>2</sup> )	群落葉色	SPAD	生育量
63	480 ~ 550	4.0 ~ 4.2	38 ~ 39	125 ~ 145

注) 生育量: 草丈×茎数×群落葉色÷1000

③ 「富富富」分施栽培における穂肥施用の基準

<1回目穂肥の基準>

- ・分施栽培においては、表3、図6を参考にし、幼穂形成期の生育状況に応じて穂肥施用を判断する。

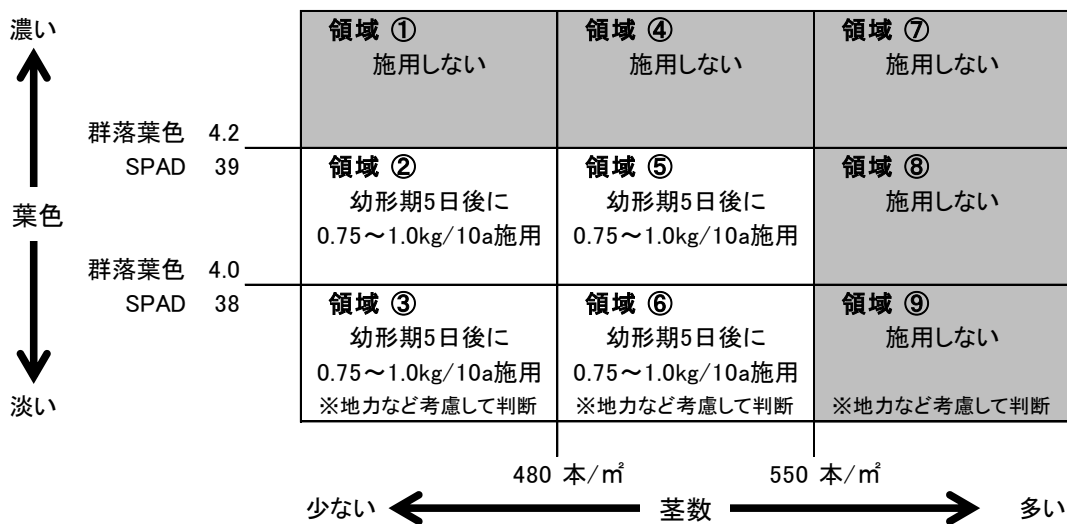


図6 幼穂形成期の生育に基づく1回目穂肥施用の目安 (H30年度暫定版)

<2回目穂肥の基準>

- ・1回目の5~7日後に窒素成分で1.5kg/10a施用する。ただし、1回目穂肥を施用しない場合は、幼穂形成期の10~12日後に窒素成分で1.5kg/10a施用する。

(4) その他の管理

病害虫および雑草防除は、コシヒカリに準じて実施する。ただし、生育期間を通しての化学合成農薬の成分使用回数が12以内となるように留意する。